

いよいよ年末大売出し!

2007年も大変お世話になりました。

■ 第二十六回目の協議会の概要

第26回協議会が11月15日(木)に開催された。今回地域の方々、横浜国大の教員学生、和田町の方々など含め多数の参加があった。今回の協議会では主に和田町で現在進行中のプロジェクトの現状報告、および終了したイベントの結果報告が行われた。

■ trick or treat!! が つないだ和田町三商店街

Wad@coの英語塾「英遊倶楽部」主催のハロウィンに今年は横浜国立大学の地域課題PJ「留学生の地域交流と居場所作りプロジェクト」が共催。英語塾の子供たちと国大留学生が和田町商店街・和田町駅前商店街・水道道商店街を練り歩いた。子供たちは留学生と楽しそうに英語で話しながら「trick or treat!!」と叫び、お店を回り「thank you!」と言って、一人ひとり手渡しでお菓子を貰っていった。今年で3年目のこのイベント、毎年参加のお店の店主さんが今年は自前の仮装で子供たちを待ち構える様子が印象的であった。



■ 地域経済元気づくり事業の取り組み ~スタジオ★へそちく~

横浜市地域経済元気づくり事業がいよいよ残り半年を切った。

事業が始まった昨年11月から、スタジオ★へそちくを拠点にフリーペーパー「わだまち界限」の発行、職人・名人セミナーやミステリーツアー、しゃべり場などのミニイベントの実施、和田町駅前広場でのイベント「わだまち★カフェ・そうてつふえすた」の開催、油田開発プロジェクトと称した廃油回収の取り組みなど、地域の皆さんの協力の下、様々な事業に取り組んできた。今後の課題は、それらの取り組みによって地域に何を残せるか、そしてどのような形でこれらの事業を継続していけるかの検討である。また、和田べっぴんマーケットとわだまち★カフェの同時開催、「へそちく★ふぁんCLUB」の設立など、今後の継続に向けた企画を検討中。

※ インタビューから

人間が小さい!? 人間優先の地域づくりを

和田町商店街入り口R16号に面した交差点では、信号の青になる時間が歩行者と車では断然車のほうが長い。「人間の存在が小さくなっている…」と商店街の丸山さん。「歩道橋は人命尊重のために出来た。しかし、現状ではお年寄りや体の不自由な方にとって苦痛の種である。どこと無く車優先の流れが出来てしまった。」と話す。丸山さんは決して車を否定しているわけではない。「人間がエンジョイするためには不可欠だよ。そもそも人間・車優先という言葉はないはず、人間と車の共存が本来の目的だ。」

そう思い続けるものがある限り和田町の風景は決して崩されることはないと感じた。

学生コラム っちょい和田

横浜国大生、天(てん)の視点からの和田町の改良点を指摘、和田町での現状の取り組みを取材。和田町を見つめ直すきっかけ作りになればと思います。

第二回目の今回はべっぴんマーケットでのフリーマーケットについて。

日本の場合、元祖フランスの *a flea market* (蚤の市)ではなく、自由参加出来る *free market* という意味として使用される場合が多い。和田町では近年業者の介入が目立つが、本来の地域交流に基づいた住民の自由参加をより増やしていきたいものだ。



(アムステルダムの蚤の市)
これからもよろしくね(”*) (天)